

## むらづくりから始まった手づくり湯豆腐の食べ処

中山間地域の活性化を目指し、城崎郡竹野町須野谷集落（竹野町の南部に位置する）では1993年からむらづくり活動に取り組み、1998年1月に集落全戸が出資して須野谷村おこし組合を設立した。同年3月には集落の空き家を活用し、地元産青大豆豆腐の食べ処「すのたにや」を開業した。

集落ビジョンの作成をもとに集落内の知恵と技と行動力を結集した取り組みは、伝統的なくらしと人情の豊かさを都市住民に伝え、若い世代3家族が定着し、過疎の村に賑わいをみせるようになった。

### 1 子どもの声がしない集落

須野谷集落は戸数16世帯、人口約50人、高齢化率は42%と町内ではもっとも高い集落である。これといった産業もなく、子どもの声がしない集落であった。

### 2 集落のやる気起こしと実践へ導いた普及活動

#### (1)集落リーダーの育成

危機感を持つ集落リーダーに何度も面談し、「むらづくりに取り組んでみませんか」と呼びかけ、活動意欲を高めた。地域農業システム化総合指導事業対象集落の指定と夫婦参加の集落座談開催へと誘導した。

#### (2)住民創意によるむらづくりへの誘い

集落座談会開催による活性化方策を検討し、「むらおこしの意識調査」「帰省者へのアンケート調査」の実施、調査結果の分析を行った。

また、①きれいな空気や自然を守る②むらの繁栄③集落内の景観整備④都市と農村の交流④特産物の育成販売を盛り込んだ集落ビジョンを作成した。

#### (3)集落ビジョンに基づくむらづくり活動支援

須野谷の自然の価値を見いだすため、専門家を招いて夫婦参加の集落踏査を実施した。

また、集落景観整備実践活動への助言指導や集落のお宝（自然・人・技・食文化・空き家）を活かした取り組み内容の検討を行った。

(4)日本一の手作り豆腐づくりの研究、食べ処「すのたにや」の開業条件整備支援

- 手作り湯豆腐の食べ処開業提案
- 青大豆豆腐加工技術の確立
- 運営主体設立支援：集落全戸が出資した「須野谷村おこし組合」設立への助言
- 空き家活用の製造業・営業許可施設設置支援
- 提供料理メニュー開発支援
- 新聞やマスコミへの情報提供

### 3 今、子供の声が集落に響き、活気づく集落

#### (1)集落のお宝再発見と繁栄

高齢・女性の知恵と技、集落の自然、空き家、食文化を活かしてアグリビジネスを成功させた。「食べ処」の運営主体役員に女性を登用し、男女共同参画社会を実現した。集落に訪れる交流人は年間約2000人になった。

#### (2)若者が居着くむらづくりの実践

小学生に青大豆の栽培～収穫～豆腐加工体の場を提供し、食農教育を実践するなど、過疎化・高齢化のイメージを拭い去った。現在、若い世代の夫婦3組が定住した。

### 4 これからの夢に向かって

グリーンツーリズム特区の指定を受けたことを契機に、自然と田舎の暮らしを活かした新しいツーリズムのモデルをつくり、中山間地域の新たな動きにつないでいきたい。



高階 智世（豊岡普及センター）

ひょうごの農林水産技術 No.129

平成15年9月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400

1部250円（申込先・県立農林水産技術総合センター）